

2023年度（令和5年度）事業報告

障がい者相談支援センターこうせいかん

1 施設を取り巻く現状と課題

(1) 事業の種類及び利用定員

- ① 計画相談支援
- ② 障害児相談支援
- ③ 一般相談支援（地域移行支援・地域定着支援）

(2) 区市町村等からの受託、補助事業等

- ① 由布市地域生活支援事業実施規則により実施される相談支援事業委託金310万円での委託契約を締結する。
- ② 障害支援区分認定調査-R5年度は市町村からの依頼はなかった。

(3) 地域における公益的な取組

- ① 由布市地域自立支援協議会や専門部会の事務局としての取り組み
- ② 相談支援や医療的ケア児等に関する研修実施への協力
- ③ 制度の対象となりにくい複合的な相談内容への対応

(4) 運営方針に対して

地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に向けて障がい福祉施策や関連施策が変化するなか、縦横断的に関係機関と連携しながら対象者の個性や想いを活かした支援の展開ができるよう努めていきました。くわえて、多種多様・複雑な要因を抱えている対象者に対して、委託相談支援事業所として基本相談をより重視してアセスメントを繰り返すなかで、専門職群と連携した制度にとられない相談支援体制を整えていきました。

由布市地域自立支援協議会のなかの事務局のひとつとして、由布市福祉課等と密接に連携して由布市らしい活動の在り方や展開を模索し、しごと支援部会や相談支援部会の運営をしていきました。協議会本会では、第3次由布市障がい者基本計画等の策定に繋がっていきました。また、R5.7月から4機能を担う地域生活支援拠点として登録して運用が始まっていきました。

相談支援従事者現任研修に参加することで、振り返りや学びを行いながら更新を行いました。指導者養成研修への参加、初任者研修や現任研修へのスタッフとしての継続的参加、医療的ケア児等研修担当者として医療的ケア児等研修の実施など行い、行政や関係機関と密接な連携を深めていくことで向上に繋がっていきました。他にも精神障がい支援、生活困窮関係機関との連携、居住支援法人との連携、引きこもり支援への学びなどを深めていきながら資質向上により力を入れていきました。

年平均 13.5 日の有給取得であり、働くことと家庭生活のバランスを大切にしました。

2 施設の実施策と取組の方向性

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	断らない相談支援
現状と課題	いろんな背景から困りが生じている対象者へのニーズに対応する。
取組状況	由布市から委託を受けている事業所として対象者の相談を断ることなく、いろんな相談機関と連携しながら対応しました。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	ひとりで抱え込まない業務分担
現状と課題	多種多様な事例への対応が必要
取組状況	職員間で GSV 的共有を図っていきながら、抱え込まずにいろんな視点を持って業務プロセスを楽しんでいくことを意識していきました。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	課題解決のプロセスを楽しむ。
現状と課題	対象者自身の強みに着目し、ライフステージに応じた寄り添いを行う。
取組状況	対象者の出来ないことではなく、得意な点に強く着目して支援に繋げていきました。多職種連携を大切にしながら、密接に共有を図っていきました。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	ICT 活用
現状と課題	効率的な連絡体制の確立や情報の共有が一層求められている。
取組状況	タブレットやプロジェクターの活用、PDF 化などを行い、向上に繋げていきました。法人として synology を導入したので、準備などを進めました。

(2) 利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	総合的・専門的相談支援の充実
現状と課題	多様化する相談内容に対応する必要がある。
取組状況	・由布市地域自立支援協議会事務局会議及び本会への参加、しごと支援部会及び相談支援部会

	<p>の運営、由布市地域相談員ネットワーク会議などへ参加し、行政・学校・医療機関などと連携した対象者支援を行っていきました。</p> <p>・居住支援法人、生活困窮関係事業所、地域包括支援センターなどと密接に連携した支援を行いました。</p>
--	---

イ 安心安全で快適な暮らしを保証し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	対象者本位のサービス展開
現状と課題	対象者が思い描く将来像実現に向けた関わりと同時に多職種連携を深めていくことが必要
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の想いを大切にしながら、制度の対象となりにくい内容にも積極的に目を向けて実践していきました。 ・生涯教育にも目を向け、R5 年度から実施された事業に参加しました。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	ワンストップ相談支援の展開
現状と課題	制度の対象となりにくい事例にも目を向けて取り組む。
取組の方向性	サービスに繋がりにくい内容にも着目し、中長期的視点のなかで関係機関と連携していきながら、対応していきました。ひきこもり支援への学びの場に参加し、向上に繋げていきました。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	基本相談の重視
現状と課題	複雑な相談内容への対応、制度の対象となりにくい事例への対応
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・由布市の委託事業所及び特定事業所として、基本相談を最も大切にしました。基本相談を繰り返す中で、スパイラルに複雑な課題やサービスの対象になりにくい内容にも目を向けていきました。 ・基本相談を繰り返していく中で内外に事業所としての取り組みを示し、連携を深めていくことで事業所としての体制の確立と安定に繋げていきました。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	スタッフの資質向上
現状と課題	社会資源の活用、調整、開発する力を身につける。
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援従事者現任研修を受講して更新を行いました。 ・大分県障害者相談支援事業推進協議会の医療的ケア児等研修理事として大分県・病院・関係機関と連携しながら協議を重ね、3日間の研修会を実施しました。大分県医療的ケア児支援センターみつわとの連携会議等にも参加し、連携と学びに繋げていきました。 ・大分県の推薦を受けて指導者養成研修に参加し、初任者研修及び現任研修のスタッフとして継続参加しました。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	地域移行に係る支援
現状と課題	事例の共有を図っていきながら、対象者の思いなどを整理していく
取組の方向性	職員間で GSV 的共有を図っていきながら、地域移行の可能性を探っていきました。地域移行支援としての実績には繋がりませんでした。対象者をしっかりと見つめていくことを大切にしました。

3 利用実績

事業名	定員	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均/月
計画相談支援	なし	50	31	24	38	30	44	39	37	30	31	38	42	36.1件/月
障害児相談支援	なし	5	3	5	6	1	2	0	3	5	3	2	0	2.9件/月
地域相談支援	なし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件/年

4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

名称	執行見込額
公用携帯電話	R5 年度期購入は見送る

5 修繕計画(大規模修繕を除く)

(単位：千円)

名称	執行見込額
特記事項なし	

6 大規模修繕計画

(単位：千円)

名称	執行見込額
特記事項なし	